

看護学生の学士力に関する学びの現状と課題

Current status and issues of learning about Gakushiryoku
in nursing students

木村 緑 山野内靖子 小笠原陽子 羽入 雪子

抄録 本研究は看護学科の学生の学士力に対する学びの現状と今後の課題を明らかにすることを目的として研究を行った。分析の結果、学士力の総合得点は学年が進むにつれて上昇していく傾向にあった。全学年を通して最も高かった項目は「倫理観」であり、最も低い項目は「数量的スキル」であった。「数量的スキル」の向上については今後の課題であり検討していく必要がある。

主題語：看護学生 学士力

I. 研究目的

文部科学省中央教育審議会は2008（平成20）年に、21世紀の日本の高等教育のあり方に関する基本的考えをまとめた「学士課程教育の構築に向けて」（答申）を公刊した。

その中で学位授与の方針に関する現状と課題として、他の先進国では「何を教えるか」より「何ができるようになるか」を重視した取組が進展していることを踏まえ、大学教育の現状と課題として「我が国の大学が掲げる教育研究の目的等は総じて抽象的」「学位授与の方針が、教育課程の編成や学修評価の在り方を律するものとなっていない」「大学の多様

化は進んだが、学士課程を通じた最低限の共通性が重視されていない」と指摘している。

このような課題を改善する方策として「大学は卒業に当たっての学位授与の方針を具体化・明確化し積極的に公開すること」「国は学士力に関し、参考指針を提示すること」を挙げている。中央教育審議会が参考指針として提示した学士力とは① 知識・理解（文化、社会、自然等）、② 汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）、③ 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）、④ 総合的

な学習経験と創造的思考力⁶⁾の4つである。

看護系大学においても吉澤らは、専門職を育成する大学であるから、その学問的基盤となる看護の知識や技術の修得は不可欠であるが、「学士」という学位を授与する以上、単に資格を取得するための教育ではなく、学士課程における看護基礎教育として、その基盤となる「学士力」を培うことも重要な教育課題の1つであると⁷⁾述べている。

本学看護学科においては2016年度（平成28年度）より3年課程教育の短期大学から4年課程教育の大学へと移行したが3年課程教育の短期大学学生においても学士力の向上は必要不可欠であるという認識のもと、学生自身が学士力の向上を意識して学びを深めていく事を念頭に教育を行ってきた。2014年度

（平成26年度）からは学生自身がどの程度学士力に対しての学びを深めることができたかを振り返ることを目的として、学士力を構成する4つの能力① 知識・理解、② 汎用的技能、③ 態度・志向性、④ 総合的な学習経験と創造的思考力⁵⁾を参考にした学士力評価表を作成し、年次配当科目の講義が終了した時点で学生自身の自己評価による測定を行っている。学生の学士力向上に向けては検討を重ねていく必要があり、そのためには、学生自身の学士力に対する学びの現状を把握することが重要である。

そこで本研究では学生が記入した学士力評価表をもとに分析を行い、本学看護学科の学生の学士力に対する学びの現状と今後の課題を明らかにすることを目的として研究を行った。

II. 研 究 方 法

1. 研究デザイン

調査研究（自記式質問紙調査）

2. 分析対象

八戸学院短期大学看護学科4期生・5期生・6期生223名の学士力自己評価シート

3. 分析方法

学年及び質問項目別に記述統計量を求め平

均值、中央値、標準偏差等を求めた。学士力評価表に関しては4段階順序尺度（4点＝よくできた、3点＝少しできた、2点＝あまりできなかった、1点＝できなかった）を用いて総合得点及び各質問項目の学年別得点を比較した。比較についてはShapiro-Wilk検定で正規性を確認したところ、正規性が認められなかったためクラスカルウォリス検定を用いた。有意水準は $P<0.05$ とした。

III. 倫 理 的 配 慮

学生には研究の目的、個人が特定されない事、参加の同意や拒否が成績に関与しないこ

とを説明し同意を得た。

IV. 結 果

1. 学生の基本属性

学士力評価表記入時の学生人数は1年生71名（男性14名、女性57名）、2年生85名（男性10名、女性75名、うち休学者3名）、3年生76名（男性7名、女性69名、うち休学者6名含む）であった。回答数は1年生71名、2年生82名、3年生は70名であった。

記入時の授業科目の履修状況については、1年生はリベラルアーツの全科目と1年次配当の専門基礎科目・専門基幹科目および実習科目の基礎看護実習Ⅰを履修済みであった。2年生は2年次配当の専門基礎科目・専門基幹科目・専門関連科目および実習科目の基礎看護実習Ⅱと高齢者看護実習Ⅰ・Ⅱを履修済みであった。3年生については3年次配当の専門関連科目および実習科目を履修済みであった。

2. 平均値から見た各学年の特性（表1）

各学年の項目別得点の平均値をみると1年生は「倫理観」（平均値3.2）（以下平均値をMeと表す）が最も高く、「数量的スキル」（Me3.2）が最も低い結果であった。2年生についても「倫理観」（Me3.2）が最も高く、「数量的スキル」（Me2.1）が最も低い結果であった。3年生についても「倫理観」（Me3.4）が最も高く、「数量的スキル」（Me2.4）、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」（Me2.4）が最も低い結果であった。すべての学年において共通して「倫理観」が最も高く「数量的スキル」が最も低い結果であった。

各項目別得点の平均値について、1年生は3.0以上を示した項目が「倫理観」のみの1項目であったが、2年生は「倫理観」「チームワーク、リーダーシップ」の2項目となり、3年生については「倫理観」「チームワーク、リーダーシップ」「生涯学習力」「問題解決力」

表1 学士力学年の平均値

	多文化・異文化に関する知識の理解	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	コミュニケーションスキル	数量的スキル	情報リテラシー	論理的思考力	問題解決力	自己管理能力	チームワーク、リーダーシップ	倫理観	市民としての社会的責任	生涯学習力	総合的な学習経験と創造的思考力
1年生	2.5	2.6	2.5	2.3	2.8	2.5	2.5	2.7	2.8	3.2	2.7	2.7	2.6
2年生	2.5	2.5	2.4	2.1	2.8	2.5	2.7	2.8	3.0	3.2	2.8	2.8	2.7
3学年	2.5	2.4	2.6	2.4	3.1	3.1	3.2	3.1	3.3	3.4	2.9	3.3	3.1

表2 学士力総合得点の比較

項目	Me	SD	Mdn	カイ2乗値	検定
学年					
1年生	34.3	5.5	34		
2学年	34.8	4.6	35	38.1	***
3学年	38.5	3.1	38		

クラスカル・ウォリス検定 * $p<0.05$ ** $p<0.01$ *** $p<0.001$

表3 学年別項目得点の比較

項目		Me	SD	Mdn	カイ 2 乗値	検定
多文化・異文化に関する知識の理解	1 年生	2.5	0.7	2	1.3	n.s.
	2 年生	2.5	0.6	2		
	3 年生	2.5	0.5	3		
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	1 年生	2.6	0.7	3	1.6	n.s.
	2 年生	2.5	0.6	3		
	3 年生	2.4	0.6	2		
コミュニケーション・スキル	1 年生	2.5	0.7	3	4.3	n.s.
	2 年生	2.4	0.7	2		
	3 年生	2.6	0.7	3		
数量的スキル	1 年生	2.3	0.6	2	1.15	* *
	2 年生	2.1	0.5	2		
	3 年生	2.4	0.5	2		
情報リテラシー	1 年生	2.8	0.6	3	20.8	* * *
	2 年生	2.8	0.6	3		
	3 年生	3.1	0.4	3		
論理的思考力	1 年生	2.5	0.6	2	46.1	* * *
	2 年生	2.5	0.6	3		
	3 年生	3.1	0.4	3		
問題解決力	1 年生	2.5	0.7	2	44.6	* * *
	2 年生	2.7	0.6	3		
	3 年生	3.2	0.5	3		
自己管理能力	1 年生	2.7	0.7	3	16.1	* * *
	2 年生	2.8	0.7	3		
	3 年生	3.1	0.6	3		
チームワーク、リーダーシップ	1 年生	2.8	0.7	3	19.3	* * *
	2 年生	3.0	0.6	3		
	3 年生	3.3	0.6	3		
倫理的	1 年生	3.2	0.6	3	3.6	n.s.
	2 年生	3.2	0.7	3		
	3 年生	3.4	0.5	3		
市民としての社会的責任	1 年生	2.7	0.8	3	3.2	n.s.
	2 年生	2.8	0.6	3		
	3 年生	2.9	0.5	3		
生涯学習力	1 年生	2.7	0.7	3	31.1	* * *
	2 年生	2.8	0.6	3		
	3 年生	3.3	0.5	3		
総合的な学習経験と創造的思考力	1 年生	2.6	0.5	3	31	* * *
	2 年生	2.7	0.5	3		
	3 年生	3.1	0.4	3		

クラスカル・ウォリス検定 * $p<0.05$ ** $p<0.01$ *** $p<0.001$

「情報リテラシー」「論理的思考力」「自己管理能力」「総合的な学習経験と創造的思考力」の8項目と増加していた。

3. 総合得点の比較（表2）

総合得点を学年比較したところ1年生（Me 34.3、中央値 34、標準偏差 5.5）（以下中央値を Mdn、標準偏差を SD と表す）、2年生（Me 34.8、Mdn 35、SD 4.6）、3年生（Me 38.5、Mdn 38、SD 3.1）で学年が進むにつれ上昇し、有意差が認められた。（ $p<0.001$ ）

4. 項目得点の比較（表3）

項目得点を学年比較したところ「数量的スキル」（ $p<0.01$ ）、「情報リテラシー」（ $p<0.001$ ）、「論理的思考力」（ $p<0.001$ ）、「問題解決力」（ $p<0.001$ ）、「自己管理能力」（ $p<0.001$ ）、「チームワーク、リーダーシップ」（ $p<0.001$ ）、「生涯学習力」（ $p<0.001$ ）、「総合的な学習経験と創造的思考力」（ $p<0.001$ ）8項目で有意差が認められた。

V. 考察

1. 平均値から見た各学年の特性について

「倫理観」とは学士力を構成する4つの能力の「態度・思考性」に分類され、内容は「自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる」¹⁾とされている。

日本看護系大学協議会では、21世紀の看護職者にとって「看護倫理」は看護実践の基盤となると考えられる⁵⁾とし、看護系大学学生における倫理観の涵養の重要性を挙げている。

今回、すべての学年において「倫理観」が最も高い得点を示したということは看護職を目指す学生として「倫理観」の重要性を認識して学習に臨んでいる結果と考えられる。

また、看護教育課程における倫理は、利用者の権利擁護や個人の尊厳の保持、生命倫理に基づく対応や、医療チーム間の人間関係における倫理といった多様な内容を含んでいる⁵⁾。学生は各学年に配当された科目の中で、「倫理観」の多様な側面からの学びを得てい

ると考えられる。

「数量的スキル」とは学士力を構成する4つの能力の「汎用的技能」に分類され、内容は「自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し理解し表現することができる」¹⁾とされている。看護分野においては、情報科学、統計学及び疫学といった分野が密接にかかわるとされている。

今回すべての学年において「数量的スキル」が最も低い得点を示した。田中ら（2005）は、2002年に看護系教育課程を持つ大学を対象として疫学・生物統計学教育の実態について調査している。その結果、疫学・生物統計学を専門とする教員が少ない、また、60%以上の担当教員が問題として感じていることでは、「調査・統計実習に適した教材が少なく」「学生の疫学・（生物）統計学を学ぶ意欲が足りない」「学生に前提となる知識・能力が足りない」「教官自身がかつと学ばなければならない分野がある」などを挙げている。また、

学生の足りない能力として「数学」「パソコン・情報処理」²⁾などを挙げている。

本学看護学科の学生についても入学時に実施する一般常識調査での「数学」の点数が低い結果となっており、学生に前提となる知識・能力が足りない状況であると考えられる。また「統計学」については選択科目となっており受講人数も少なく、看護と「数量的スキル」の関連性についての理解が乏しい状況にあると考えられる。今後の課題としては「数量的スキル」が看護に関わる問題の発見・分析・解決に有用である⁴⁾という認識が持てるような働きかけや「数量的スキル」に関連する科目の中で学生が、看護と結びつけて考えていけるような講義展開の工夫も必要であると考えられる。

2. 総合得点および項目別得点の比較について

学年が進むにつれて総合得点が上昇したことについては、3年間を通じて、知識および汎用的能力の向上が反映された結果と考えられるが、平均値からみた各学年の特性および、項目別得点の比較の結果と併せて考える必要がある。

1年次で平均値が3.0を超えたものが「倫理観」のみであったのに対し、2年次には「チームワーク、リーダーシップ」が平均値3.0を超え、3年次には前述した2項目に加え「生涯学習力」「問題解決力」「情報リテラシー」「論理的思考力」「自己管理能力」「総合的な学習経験と創造的思考力」が平均値3.0を超えていた。

また、2年次および3年次で上昇がみられた「チームワーク、リーダーシップ」「生涯

学習力」「問題解決力」「情報リテラシー」「論理的思考力」「自己管理能力」「総合的な学習経験と創造的思考力」の7項目については統計学的有意差が認められた。これらの結果と学年別の履修科目の相違や特性に着目して考察を進めてみる。

2年次に上昇がみられた「チームワーク、リーダーシップ」については、2年次は基礎看護実習Ⅰ・Ⅱおよび高齢者看護実習Ⅰ・Ⅱの履修が終了している。また、本学では学園祭などの学生会活動の中心的役割を2年生が担うため、チームワークやリーダーシップが求められることが多かったと考えられ、実習や学生会活動を通じた経験が反映した結果と考えられる。

3年次に上昇がみられた「生涯学習力」「問題解決力」「情報リテラシー」「論理的思考力」「自己管理能力」「総合的な学習経験と創造的思考力」については、3年次は高齢者領域を除くすべての専門領域実習の履修が終了している。また、2年次からの研究演習を通して卒業研究論文の作成、卒業研究発表までを経験し、3年間の教育課程を修めることで汎用的能力が高まったと考えられる。また、多くの学生は就職先が内定しており、社会人となる動機づけが高まっている時期であり、こういった状況が関連している可能性が考えられる。

最後に統計学的有意差の認められた「数量的スキル」についてだが、この項目については前述したように、すべての学年において最も低い得点を示している。これについては、すでに前項で考察済みであるため、2年次に最も低いことについて考察する。

1年次は一般的に「数量的スキル」と関連

性があるといわれている「統計学」や「情報処理」が配当されている。また3年次については卒業研究論文の作成にあたって数学的なものの考え方が必要となり、それらが関連し1年次3年次は高めの得点となった可能性がある。2年次についても「看護研究」および「研究演習Ⅰ・Ⅱ」が配当されているが、これらの科目は導入的な要素も強く「数量的スキル」

につながるという考えに至らず、低い得点となった可能性がある。「数量的スキル」の向上については今後の課題であり、検討を行っていく必要がある。

学士力は教育力ともいわれており、教員の教育力も大きく影響しているといわれている。今後、授業評価や到達度などの評価も併せて分析を行っていく必要がある。

VI. ま と め

本研究では学生が記入した学士力評価表をもとに分析を行い、本学看護学科の学生の学士力に対する学びの現状と今後の課題を明らかにすることを目的として研究を行った。

学士力の総合得点については学年が進むに

つれて上昇していく傾向にあった。全学年を通して最も高かった項目は「倫理観」であり、最も低い項目は「数量的スキル」であった。「数量的スキル」の向上については今後の課題であり検討していく必要がある。

VII. 研究の限界

1. 本研究は学生の主観的評価のみの分析であるため、学士力の総合的な評価とすることはできない。今後は客観的評価も実施し、総合的に分析する必要がある。

2. 本研究は平均値や中央値といった数値的分析のみであったため、その数値が示す意味についての考察には限界があった。今後は学生の質的な評価も分析し、考察を行っていく必要がある。

3. 本研究は学年別に分析した横断的研究

であったため、学生一人一人の3年間の推移については不明である。今後は継続して調査を行い縦断的な分析も必要であると考ええる。

4. 本研究の考察において、学年別の配当科目の違いに着目し、通念上齟齬のないと思われる範囲で、配当科目と学士力の関連を考察した。今後は、本学看護学科の配当科目が学士力のどの項目と関連しているかを分析したうえで検討を行っていく必要がある。

謝 辞

本研究にあたり、評価表の作成の際に助言
を下さった先生方に申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 国立教育政策研究所:「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力と今後の実践
www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryou/pdf/3-02.pdf: 2016/1/30 閲覧
- 2) 田中司朗、山口拓洋、大橋靖雄:看護系教育課程を持つ大学における疫学・生物統計学
教育の実態調査(2005)、日本公衛誌、52(1): 66-75
- 3) 土橋信男:大学の教育力と学士力形成に関する一研究 ―学士力アンケートによる大学
教育力の検証の試み―(2011)、大学アドミニストレーション研究、1: 11-24 <http://hdl.handle.net/10252/4580>: 2016/2/24 閲覧
- 4) 中野正孝、中村洋一、福井龍太、他:看護系大学及び大学院における情報・統計・疫学
教育の現状と課題(2015)、三重看護学誌、Vol 17: 1-12
- 5) 日本看護系大学協議会:看護学教員における倫理指針作成の経緯 www.janpu.or.jp/umin/kenkai/rinrishishin07.pdf: 2016/3/5 閲覧
- 6) 文部科学省:「学士課程教育の構築に向けて」中央教育審議会答申の概要 www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/.../1247211.htm: 2016/2/24 閲覧
- 7) 吉澤千登勢、白鳥孝子、真下綾子、他:看護系大学の専任教員が捉えた「学士力」につ
いて―知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力―(July,
2013)、日本看護教育学会誌、Vol. 23, No 1